

さいたま市長 3 月定例記者会見

平成 22 年 3 月 23 日（火曜日）

午後 1 時 30 分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、ただいまから定例記者会見を始めさせていただきます。

それでは、記者クラブの幹事社の朝日新聞さん、進行をお願いいたします。

○ 朝日新聞 幹事の朝日新聞です。よろしくお願いします。

初めに、市長からの発表事項につきましてご説明ください。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。それでは、定例記者会見を始めさせていただきたいと思います。本日の議題は 2 件でございます。

それでは、議題 1、「平成 22 年度の予算編成過程の公表」についてでございますが、平成 22 年度の予算編成過程の公表につきましては、これまで市長査定の一部を公開するなど積極的に取り組んでまいりました。

公表を通じて、市の予算編成がどのようなプロセスで行われているか、事業の内容や査定の理由などを含め、市民の皆様幅広くお知らせをすることにより、意思決定過程の透明化が向上するものと考えております。

今回公表する事業は、しあわせ倍増プラン 2009 や総合振興計画新実施計画に位置づけられました事業も含めて、各局が選定した平成 22 年度に取り組む主要事業など 117 事業となっております。

それらの事業につきましては、事業の内容、目的、現状と課題、今後の予定などとともに、要求の内容、財政局長査定、市長査定の各段階における査定の内容、理由をそれぞれ記載しております。

他の指定都市の状況を見ますと、各段階での査定理由を付して公表する市はなく、公表内容につきましては指定都市の中でもトップクラスの取り組みであると自負をいたしております。

今後は、このたびの公表に対するご意見や他自治体での取り組みなどを参考にしながら、情報公開日本一を目指すさいたま市にふさわしい手法、時期、対象事業をさらに検討し、より一層の拡充をしてまいりたいと考えております。

本日は、事業の一例として「区まちづくり推進事業」と、市長査定で皆様に公開をしました「咲いたまつり事業」の2事業を抜粋してお配りしております。

「区まちづくり推進事業」は、道路等の修繕経費につきましては区民生活に直結するものであることから、前年度と同額を確保するために、財政局長査定から私が増額をしたものでございます。

また、「咲いたまつり事業」につきましては、有料イベントの開催について他都市の状況を踏まえ、費用対効果を勘案して予算化せず、削減した経費を地域まつりの充実を図るための経費として配分をしたものでございます。

なお、公表するすべての事業につきましては、記者会見終了後、各区情報公開コーナー、市ホームページにてお知らせをいたしますので、ごらんいただきたいと思っております。

あわせて、市議会各会派からの「予算編成への要望書」に対する回答につきましても、同時に別途公表掲載をいたしますので、ごらんいただきたいと存じます。

続きまして、議題2、「大宮盆栽美術館の開館」についてご説明をいたします。平成20年11月より建設を進めてまいりました大宮盆栽美術館が、いよいよオープンをいたしますので、お知らせいたします。

さいたま市の北区に整備を進めておりました「大宮盆栽美術館」が、いよいよ3月28日の日曜日、午後1時にオープンとなります。

この美術館は、世界初の公立盆栽美術館として、本市が所蔵する名品盆栽の展示のほか、盆栽の歴史や文化をさまざまな観点から調査・研究し、その成果を発表してまいります。

また、各種の講座や講演会など多彩なイベントを開催するなど、盆栽文化の魅力を国内外に発信する拠点となる施設であります。

最初に、施設概要、施設内容につきましては、お手元に配付しております資料の別紙1のとおりで、鉄筋コンクリートづくり、地上2階、地下1階、延べ床面積1,497.58平方メートルで、建物のほか盆栽広場、盆栽庭園などを整備した和風の施設となっております。

次に、落成式典と内覧会についてでございますが、落成式典は3月28日

の午前8時30分から美術館ロビーにてとり行い、テープカットを行った後に開館記念展覧会のご案内をいたします。

また、既にご案内は差し上げておりますが、開館に先立ちまして、報道関係の方々には3月26日の金曜日、午前11時30分から内覧会を実施いたしますので、ぜひお越しいただきたいと思っております。特に名盆栽とされており、「日暮し」、「青龍」などは、今回市内初公開となります。

最後に、開館記念展覧会についてであります。開館記念「美術コレクション名品選」を5月5日の水曜日まで開催いたします。ここでは、当館が所蔵する絵画資料や歴史資料である盆器や水石、浮世絵などの主要な作品を選び出して、紹介してまいります。

展示期間中、館長や学芸員による「美術講演会」や「名品選ギャラリートーク」も行ってまいります。詳しい事業内容につきましては、お手元に配付をしております「開館記念美術コレクション名品選」のチラシをご覧ください。

これらの活動を通じまして、盆栽文化の振興を図り、さいたま市の文化の向上、また知名度を高めてまいりたいと考えております。

以上で私からの説明は終わりにさせていただきます。

○ 朝日新聞

ありがとうございました。

市長の説明に対して、幹事社の朝日新聞より幾つかご質問させていただきます。

「大宮盆栽美術館」なんですけれども、この前、入館者の目標についてお答えいただけなかったんですけれども、それについては何人ぐらいと。

○ 市長

5万人でございます。

○ 朝日新聞

5万人。

○ 市長

はい。

○ 朝日新聞

このうち、有料入館者というか、市が例えば小学校とかに来てくださいますか、例えば、当然それで入館者は増えると思うんですけれども、あくまでも自発的というか、そういった入館者というのは、市長、どのぐらい、何割ぐらいだと見ていますか。

○ 市長

そうですね、自発的か、自発的じゃないかというのはなかなか区分けをするのは難しいと思っておりますけれども、そうですね、基本的には、その5万

人の内訳という意味ですか。

- 朝日新聞 何割。
- 市長 そうですね、それ以外の方々は、6割から7割ぐらいということを想定いたしておりますけれども。
- 朝日新聞 三、四割ぐらいは、教育委員会なんかを通じて小学生の社会科見学だとか、そういったようなこと。
- 市長 そうですね、基本的には学校団体等については、当初は4,000人ぐらいというようなことで考えておりました、それ以外に市民の皆さんの各層に対しましてPRを行っていくということでありまして、さいたま市を初めとする一般層に対して約1万7,500人ぐらいという想定をしているんですが、これは、働きかけをした人、していない人も両方とも含めてということになりますので、積極的な働きかけで来れる方は、ですから割合としては、2割ぐらいで、8割ぐらいは自発的なものという想定とちょっと言い直したほうがいいかもしれません。約ですけどね。特に当面としては、全国あるいは海外からの観光客を、今のところ想定をしている、目標設定としているものとしては6,300人ですね。それから、さいたま市内の一般層を対象としての1万7,500人ぐらい。学校団体が4,000人。それで、ガーデニングのファンの方々を4,500人、盆栽ファンを1万2,000人、それから大盆栽まつりがありますので、そういったイベントのときに来ていただくのを5,000人ぐらいと想定しております、大体約4万9,300人、約5万人ということを当面の目標ということにさせていただきます。
- 朝日新聞 盆栽ファンの中には県外の人もいれば、海外の人も当然いるでしょうけれども。そうすると、市外から呼び込めるといのは何人ぐらいか。
- 市長 市外から。
- 朝日新聞 はい。
- 市長 そうですね、3割から4割ぐらいは市外からと想定しているということだと思います。
- 朝日新聞 あと、目標については、最終的には、これ清水市長になってからかわからないんですけど、12万人という数字があると思うんですけど、これは岩槻の人形会館も含めています。

- 市長 そうですね。
- 朝日新聞 それは、いつぐらいに達成したいというか。
- 市長 これは、一応将来を目標としておりますけれども、岩槻の人形会館あるいは鉄道博物館等との連携をする中で、将来12万人を目指していこうというものでございまして、12万人の想定としては、主催する名品盆栽の展示や企画展による来館者を5万人、それから盆栽展示会の開催、愛好家による作品の展示による来館者を5万人、それから鉄道博物館あるいは人形会館との連携による来館者を1万人、それから盆栽村、周辺観光資源の来訪者との相乗効果による来館者数を1万人と想定して、将来的な目標ということにさせていただいているところであります。
- 朝日新聞 公立の美術館なんかも、かなりそのコストパフォーマンスだとか、経営に対する視線が厳しくなっている中で、結構なお金で、美術館を公立で開館するというそのねらいというか、意義というのはどの辺にあると考えていますか。
- 市長 1つは、いわゆる盆栽文化については、さいたま市が他の市あるいは全国的に見ても大変特徴のある文化であろうというふうに思っております。この盆栽文化を全国的に発信をするということによって、1つはさいたま市自体のいわゆるイメージを上げるという効果が1つあります。それから、もう一つは、これまでの文化を守り、後世に伝えていくという役割もあると思います。それらに加えまして経済波及効果、こういったものも期待をしていきたいと思っております。あとは、伝統産業の活性化。こういった視点もあるかと思っておりますので、これらを総合的に判断をして、それぞれの効果を十分に図りながら進めていきたい、それらの効果を十分に高めながら、向上させながら進めていきたいと思っております。
- 朝日新聞 幹事社からの質問は以上です。
- 市長からの発表事項について、各社質問があればよろしく申し上げます。
- 日本経済新聞 日本経済新聞です。
- 大宮盆栽美術館の件で、周辺の鉄道博物館ですとか、岩槻の人形会館と連携を考えていらっしゃるというお話ですけれども、具体的に連携というのはどんなことが考えられるんでしょうか。
- 市長 そうですね、1つは、例えば鉄道博物館については非常に距離的にも近

いところがございますので、鉄道博物館に来ていただく方が今、年間大体100万人ぐらいいらっしゃるんですね。ですから、その皆さんにも盆栽美術館に立ち寄っていただけるような工夫をさせていただいたりですね、それから周辺の幾つか、漫画会館とか、いろいろ観光、周辺でございますので、そういったものを回遊させていく方策をつくらせていただいたりやっていきたいと思っております。例えば、ちょっとまだ課題も多いんですけども、例えば鉄道博物館と盆栽美術館がセットで来ていただけるような、そんな取り組みなんかもしてみたいなと思っております。まだちょっと課題も幾つかありますので、そういったものをクリアをしながらやっていきたいなと思っております。

- 日本経済新聞　　まだ具体的な方策というのは見えてきていないということですか。
- 市　　長　　そうですね。今幾つか案は出てきておりますので、それを今実務ベースでいろいろ検討しているという最中でございます。
- 日本経済新聞　　今既にある鉄道博物館との連携というのは、もう本当にすぐにでもやらなければいけないことだと思うんですけども、いつまでにその案を実現させたいというふうな目標はありますか。
- 市　　長　　早急に。4月中にはある程度ね、方向性を見出していきたいなと思えます。具体的な事業の1つとしてですね。ただ、これから、多分それ以降1つ何かをやるということだけじゃなくて、いろんな部分でこの鉄道博物館あるいはこれからできる人形博物館との連携ということについて言うと、もう少ししっかりとどういう部分で連携ができるのか、どういう部分でより観光資源として魅力あるものにしていくのかということについては、もう少し長期的に、検討しながら総合的に展開をしていこうと思っております。ただ、具体的に幾つかについては、スタートできるものがあれば、その都度実施をしていきたいと思えます。
- 埼玉新聞　　埼玉新聞です。
- 予算編成過程の公表についてなんですけれども、市長査定のところの査定理由が書かれておりますが、これは市長ご自身の判断ということで見てよろしいのでしょうか。
- 市　　長　　はい。
- 埼玉新聞　　あと、ホームページあるいは区役所のほうで公開されるということですか。

けれども、この公開に対して市民からの意見、パブリックコメントみたいなものを記入できるような、ホームページに記入できるような欄みたいなのは設ける考えはあるのでしょうか。

○ 市長 そうですね、現状ではそこまでちょっと想定しておりませんでしたけれども、そういったことも含めて、随時改善をしていきたいと思えます。

○ 埼玉新聞 あと、今回117事業の公開ということですが、来年度以降さらに公開する事業を広げていくという考えはあるのでしょうか。

○ 市長 そうですね。対象については、できるだけもう少し広げていきたいと思っております。

あと、方法あるいは時期等については、まだちょっと検討している段階でございますので、より市民の皆さんにわかりやすいように進めていきたいと思っております。

○ 朝日新聞 ほかによろしいでしょうか。

それでは、幹事社から2問質問をさせていただきます。

今回4月の1日の人事異動のねらいについてがまず1点と、もう一点は2011年度、平成23年度以降の財政見通しと、その対応についてお願いいたします。

○ 市長 それでは、まず1番目の4月の人事異動についてのご質問にお答えをさせていただきます。

本日、平成22年4月1日付さいたま市の人事異動の内示を行わせていただきました。まず、人事異動に当たっての基本的な考え方について申し上げます。私の掲げる3つの基本姿勢、「責任と共感」、「徹底した現場主義」、「公平、公正、開かれた市政」を徹底するための人事異動であり、来年度は合併10周年を迎えることもあり、職員のさらなる融合を図ることを念頭に置いて人事異動を行いました。

特に本庁と区役所間の人事異動、水道局との人事交流については、例年以上に力を注いだところでございます。今回の人事異動により幅広い視野や行政経験を備えた職員を養成し、新たな刺激を受け、モチベーションの向上、組織の活性化を図ることが今回の異動のねらいであり、ひいては市民のさらなる幸せを実感できる、「子どもが輝く絆で結ばれたまち・さいたま市」の実現に向けて、その担い手となる職員の意欲、適正、能力などを

考慮した適材適所の人事配置を行わせていただきました。

次に、配置方針の主なものを申し上げます。

1つ目として、本庁と区役所間等の人事異動及び人事交流であります。まず、組織力の向上、幅広い視野や行政経験を備えた職員を養成するため、管理職員を含め、本庁と区役所間等における人事異動及び水道局との人事交流を積極的に実施いたしました。特に区民ニーズや地域課題に自主的、主体的に対応できる区役所の構築に向けた区長への権限移譲や区の独自性、裁量性が発揮できる予算制度の導入を踏まえまして、区役所へ企画、人事、財政業務経験のある職員の配置を行いました。

2番目としまして、庁内公募の実施及び自己申告制度の活用であります。みずから挑戦する意欲のある職員の希望を尊重し、士気の高揚を図るとともに、職員の持つ能力をさまざまな分野で発揮させることにより、人材の有効活用、組織の活性化等を進め、市民サービスのより一層の向上を図るため、庁内公募による登用を行いました。

また、配置に当たりましては、自己申告の実施によりまして職員の意向を汲み取り、人材の効果的な活用に努めました。

3つ目として、組織改正への対応と適正な人事配置ということでございます。重要政策事業に的確かつ重点的に対応した体制を構築するために、新たに設置をするポストにつきましては、職員の経験や能力を踏まえた適材適所の人事配置を行いました。

また、限られた人員を有効に活用し、組織力を高めるため、管理職員の配置を見直し、ライン職である複数の次長ポストを整理するとともに、副理事や副参事などのスタッフ職の配置は必要最小限とし、実務担当者の確保に努めました。

4番目として、定員管理と再任用職員の活用ということであります。定員適正化計画の最終目標であります平成22年4月1日におきます職員数9,044名の達成に向けまして、退職職員の知識、経験、能力、意欲等を最大限活用し、市民生活向上のため再任用職員の積極的な活用を図ってまいります。

5番目としまして、多様な人材の確保と活用ということであります。民間人（任期つき職員、民間経験者）採用を積極的に登用することによりま

して、公務部内では得がたい民間のノウハウや高いコスト意識を取り入れ、複雑化、高度化する行政需要に速やかに対応するため、任期つき職員や民間経験者を採用いたしました。

6番目として、他団体への研修派遣ということで、知識、視野を広め、職員の持つ資質向上を図り、将来の行政運営の充実を図るために、新たに環境省、政令指定都市、民間企業へ研修派遣を行うことにいたしました。

7番目として、ジョブローテーションの実施ということであります。長期間一つの課に在課をしている職員につきまして、多様な部門を経験させることにより、個々の職員の能力開発や組織の活性化を図るため、所属内の経験年数のバランスに配慮しながら優先的に配置換えを行いました。

続きまして、2011年度以降の財政見通しと対応についてお答えをさせていただきます。

昨年の6月時点におきまして中期財政収支見通しをベースとした財政収支の推計では、平成23年度では約329億円、平成24年度では約397億円の財源不足額がそれぞれ見込まれ、中長期的にも収支不足額は拡大する傾向にあると考えております。

この財政推計におきましては、平成22年度における市税収入の大幅な減収や、生活保護費、子育て医療費などの社会保障費の急激な増加などが盛り込まれておらず、しあわせ倍增プラン2009の各事業に対する各年度の事業費や、現在国会において審議がなされております子ども手当など、国の制度改正における各年度の影響額等も反映されていないことから、早急に新たな中期財政収支見通しの策定を行う必要があるものと考え、策定に向け着手をしたところでございます。

以上です。

- 朝日新聞 ありがとうございます。
代表質問に関して各社質問があればお願いいたします。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
本庁と区役所の人事交流を図るといのはわかるんですが、水道局とあえて挙げているのは、どういった理由なんでしょうか。
- 市長 比較的、これまでも非常に小規模な形で水道局と本庁との人事交流が行われておりましたけれども、本庁にとっても、また水道局にとっても、や

はり人事交流をしていくということはお互いの組織にとって大変重要なことだと思っております。合併をする前は、それぞれ別の組織ということで、政令市に移行して同じ組織ということになったわけでありましてけれども、水道局のほうは、そういう意味では、いわゆる企業的な感覚を持っている職員の方もたくさんいらっしゃいますし、そういう意味では民間的な発想を持っていらっしゃる部分もあります。ただ、逆に言うと、本庁の部分との交流がちょっと薄いために、それらを積極的に交流させることによって、お互いの組織の、いい部分を刺激し合ったほうがいいだろうということで、この人事交流を行わせていただいたところです。

- 埼玉新聞 水道局以外で、ほかの消防とかありますけれども、まだ人事交流の薄いところというのはあるんでしょうか。
- 市 長 そうですね。一つは、これまでよりは少し多く市立病院などにも人を入れたりしておりまして、それぞれの、これまで余り交流が薄かったところをできるだけいろんな形で交流をさせて、お互いのいいところ、悪いところを、交流する中で発見をしてもらって、そして経営改革、組織改革、行財政改革に取り組んでいただこうと、こういうスタンスで交流させていただきまます。
- 読売新聞 済みません。4月1日付で、また民間のほうからの期限付きの職員採用が2件出ているようなんですけど、この2人に期待するところを簡単にそれぞれ教えてください。
- 市 長 お一人は、いわゆる観光の担当、もう一人は、いわゆる産業振興というんでしょうかね、ものづくりを含めた産業振興、この2つをそれぞれが担当していただくわけでありまして、特に経済分野につきましては、どうしても、例えば観光などについては、もちろんこれまで経済局、あるいは外郭団体であります観光コンベンションビューローなどが連携してやってきた部分もございますけれども、より一層民間的な視点、発想などを取り入れていただきながら、これから3月28日にオープンします盆栽美術館を初め人形会館、あるいは今後設立を予定しておりますスポーツコミッションなどですね、こういったものを民間の視点を持って大いに活性化をしていただきたいという思いがありまして、採用させていただき、またそれらを期待しているところであります。

また、産業の振興に当たりましては、これもやはり企業ということで、そのものづくり、あるいは企業を支援、応援をして、政令市にふさわしい経済力を持った市に成長していこう、発展をしていこうという思いがございますので、その中で民間企業がどういう支援を行政に求めているのか、そういった感覚を、しっかりつかんでいただくとともに、それぞれがお持ちの人脈、ネットワークなども大いに活用していただきながら、そういった企業の支援、既にある企業の支援、あるいは新たな企業の誘致などに結びつけていきたいと思っております。

- 読売新聞 もう一点、いわゆる民間からのですね、期限付きの採用というのは、これでもう大体かなり……
- 市 長 そうですね、大体これで。はい、一段落ついたことになります。
- 埼玉新聞 財政見通しの関係なんですけれども、先ほど平成23年で329億円、平成24年で397億円の財源不足が見込まれると。その一方で、平成22年の市税の大幅な減少、社会保障費の増加というのは含まれていないとおっしゃられましたけれども、この22年度の市税減少、社会保障費の増加を含んだ、いわゆる最悪のシナリオというのは、現在のところは策定はされていないんですか。
- 市 長 ええ。ちょうど今取りかかっている最中でございまして、まだ国のほうの制度設計の問題なんかもございますので、もう少し先になるかと思いません。当然今つくっております新行財政改革プランの中にも、こういったものが十分に反映された形でプランが練られることが必要だと思っておりますので、もう数カ月ちょっと先になるかなというふうに思っております。
- 読売新聞 夏ごろには大体のめどが立つという。
- 市 長 そうですね、そのぐらいにはめどが立ってくると思います。
- 朝日新聞 人事の話に戻るんですけども、市長のマニフェストで掲げた外郭団体へのあっせん、紹介、あっせんとかを今年からなくしたということで、基本的には外郭団体に行く幹部の方はいらっしゃらないということ聞いたんですけども、そうすると局長さんとか区長さん、結構退職の方が多いと聞いたんですが、こういったポストにして、どのようなことを期待して、その実績というかを、今年から新たにそういう取り組みが始まるということだと思ってるので、どういうふうに判断していきたいと思っておられ

るか。

- 市長 そうですね。基本的には、その局長さん、区長さんたち再任用ということで、いわゆる係長級だったですかね。
- 事務局 主幹級です。
- 市長 主幹級ということで再任用させていただいておりますが、これまでのそれぞれの職員の方々の経験だとか、あるいはいろいろ持っている知識、あるいは情熱などを勘案しまして、私たちとしては再任用としてもしっかりとした戦力として見ていかななくてはいけないと考えておまして、そういった一人一人がしっかりと働ける場ということで選ばせていただきまして、それぞれに配置をさせていただいたということでございます。
- 朝日新聞 ただ、以前局長だった偉い方が主幹級で各課とかに配属されて、やりにくいとか、若手が育たないとか、なかなかお互い難しい、再任用じゃない職員と多分難しいと思うんですけども、その辺をどういうふうに。
- 市長 その辺は、業務をしながら構築をしていただくしかないと思いますけれども、現状としては、今の職員の中でも年齢が前後していたり、どこかで立場が逆転をしたりというようなケースもないわけではありませんので、そういう意味ではそれぞれ与えられた職場、立場の中でしっかりと仕事をしていただけるように、やっていくということしかないと思います。
 基本的には、それぞれ明確な役割を再任用の際にお話をしてございますので、それらに基づいてそれぞれが役割を果たしていただくと、もちろん年長者でもありますから、そういったこれまでのいろいろな経験を生かして発言をしていただく部分も当然あるでしょうし、その辺はうまくそれぞれの部署でコミュニケーションを十分に図っていただいて、やっていただくということになるんじゃないかと思います。そういう意味では、そういった外郭団体ではなくて、この役所の中に働いていただくということはこれまでも再任用という形でやってはきておりますので、ある程度の土壌はあるかと思っておりますので、それらをより根づかせていきたいなと思っておりますけども。
- 朝日新聞 ほか、人事とか盆栽問わず何かご質問ありますでしょうか。
- 東京新聞 済みません、東京新聞なんですけれども。盆栽に戻ってしまうんですが、何か聞くところによりますと、御飯を食べるところもないし、遊歩道を整

備するといったところもまだ全然できていなくて、お菓子などのお土産も間に合わないといったところで、世界に発信する美術館として準備は十分だったとお考えでしょうか。

○ 市長 そうですね、準備の期間が、正直言うとやっぱりちょっと短かったようには思っております。ただ、その限られた時間の中で、きょうも皆さんの前のほうに一応ミュージアムショップで売るグッズなどは幾つかずつできつつありますけども、ただ今後ポイントは、この間の記者会見でもお話をしましたが、周辺の施設、あるいは周辺の商工業者の方々とどういうふうに連携をしていくのか、これが多分経済波及効果をどのぐらいもたらせるかの大きな鍵を握っていると思っておりますので、それらについても今観光コンベンションビューローや、あるいは盆栽美術館、あるいは幾つかの複数部局が連携して今取り組み始めていただいておりますので、少しお時間はかかるかと思えますけども、その辺はより経済波及効果が高くなるようにしっかりとやっていきたいなと、より魅力が高まるようにやっていきたいと思っております。

○ 東京新聞 その経済波及効果なんですけど、試算をしていないらしいんですけども、どういった根拠から出ると思われんでしょうか。

○ 事務局 文化施設建設準備室です。経済波及効果につきましては、先ほど市長さんおっしゃったようないろんな観光団体とか、商工会、商店会との連携ということで、数字的には出してはおりませんが、今後そのような連携を図っていきたいと考えています。

○ 市長 今後どのぐらい経済波及効果が生まれてくるかについてはですね、きちりと検証はしていきたいと思っております。

○日本経済新聞 最初から、こういう構想が出た段階で普通出すものなんじゃないでしょうか、どうでしょうか。

○ 市長 本来はそういったことをしっかりやるんだと思えますけれども、それが現状としてはできておりませんので、できるだけ早い時期に、経済効果がどのようになっていくのかについては、検証していきたいと思っております。また、PR効果についてもですね、測定をしていくつもりであります。

○日刊工業新聞 日刊工業新聞です。今また電気自動車を普及させるためのサミットがあると思うんですけど、そちらの進捗状況と、E K I Z U N A プロジェク

トの新年度の方向性というのをまた改めて教えていただければと思います。

- 市長 今は鋭意準備を進めておりまして、18 ぐらいの地方自治体の市長さん、あるいは副市長さんがお見えいただけるような状況になりつつあります。あとは、民間の自動車メーカー、あるいは輸送事業者等々ですね、民間の企業の方々にも参加をいただける予定にもなっております。

これは、改めてまた、準備としては非常にいい形で進んでおりますので、次かその次ぐらいには、しっかりとした形で発表させていただけるかと思っておりますので、ちょっとお待ちいただければありがたいなと思っております。

- 共同通信 共同通信と申しますけれども、子ども手当の話なんですけども、一応国のほうは6月支給でというふうに言っておりますが、結構全国各地でちょっと6月支給は厳しいというふうな声も上がっていると思うんですけども、さいたま市さんのほうは準備状況といたしますか、いかがでしょうか。

- 市長 かなり厳しい環境にはあると思いますが、担当来ていますか、今日は。
- 事務局 来ておりませんので、また後でご報告させていただきます。

- 市長 現状として、ざっと報告を受けている話では、大変厳しいという状況はあると思います。

- テレビ埼玉 テレビ埼玉です。県議会の予算特別委員会の中で、さいたま市北区にある第三セクターのさいたまソフトウェアセンターについて、上田知事が「やったふり行政の典型」という形で指摘して、整理する考えを示したんですけども、それについても把握していらっしゃるようでしたら、市長の考えを聞かせていただきたいんですけど。

- 市長 現状としては、まだ県のほうから具体的に申し入れがございません。でするので、それを受けまして対応していきたいと考えております。

- 朝日新聞 ほかにありますでしょうか。

ないようでしたら、以上で終了させていただきます。

- 進行 それでは、これで定例記者会見を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

- 市長 どうもありがとうございました。

午後2時11分閉会